

奇大書

書林不備

映卷下
明治二十一年圖書局發行

東京 田島象二戲述

書林不備

二人 駁藝妓之醜狀

大愚氏携兩佳人就座對一般而成多計較

了突一口張胸聳背作容儀擬艶郎以手撫頭備弱

兒於膝為咳兩三番放豕嘖声彈以口三茲變化

勸進帳謳道テチチリケツ云の心ココロのさかしくれあひれ奇述キジュツらん

時の海ウミをタテマシ三月の十日ミチノカれサキ書林カキのカ現アれてヒト是コト奇述キジュツ云

ゆめ集ユメツミてル知るシ由ユらぬルも大オホいク奇述キジュツ見ミせルをコトしレるハ奇述キジュツ

これくの事を堪のつらみまかければ云らんと倦者を帝のさる事
さるるのさる者と云り雲はの神の容像をうけあそぶ神の化身を
さかてゆひあつんと皆さんのさかて汁の雑の者の神毒の疑ひを
おぼて疑ひはれながら言へば浮雲はれんと神をとおもひつゝと
あり鑑れのわれがこそ若の肉の味果の味も二枚を出し鑑れの味も
つげつゝさるらあこそ神あけらるゝと云ひと云ひつゝとあつゝと
教をこれの肉生死を若の味もさるらあつゝとあつゝとあつゝと
へんちをさるらあつゝとあつゝとあつゝとあつゝとあつゝと
胸
抑
キ
甚
然
時
二
仇
吉
女
史
無
俚
ノ
妙
音
ハ
如
何
デ

グス君モ此ニハ、ト北山時雨デ御顔ニ楓ガ散
マ、ト、ア、レ羽束師ノ森鳥啞ノ胸ノ内、二世モ三
世モ前ノ世モ、大愚ハンナラ夫婦ト成ト生ニ能
似タ兒産デ如何ナ苦勞モ厭ハヌト、忍テ殺慮
ヲ廻ラスダロウ止テ御吳ナハイ御前ハンニ
似タ兒ガ出來タラ、人ニ化ハタカラ直ニ博覽
會ノ出品サ、イテ好ネ、御前ハンガ餘リ饒古タ
者ガカラ、諸數ガ殖テ私ノ言コトガ書ナクナ
ツタハ、如何シヨウネ、
ネ、蘭田ハン後生

テスカラ、今日ハ無擄御客ト、上手ヘ往マシタ
カラ、三帙目ニ掛ケテ御吳ナハイト看官衆ノ
御氣ニ觸ラナイ様確ト云テ御吳ナハイナ、確
トデスヨソレナラ看官ハン姉ハンチエウ

○
畫史彙傳莞尔 活轉文人、心肝

李愿隱居盤谷譜

昔者文人多起於感慨悲歌、徒之隱居而無
用世之意、不繇素志、特求故堯舜世文人少

宋晚明末文人多矣、假令似星之昼不見、夜
闕見、鎌倉山、星月夜、忠臣孝子然也、

窮居而野處、昇高而望遠、坐茂樹以終日、
濯清泉以自潔、採於山、美可茹、釣於水、鮮
可食、起居無時、惟適之安、車服不雜、刀鋸
不加、理亂不知、黜陟不聞、

這首安樂法詞、大抵說人的厭世、為文人乃生於
不平、非宿志、所以為今夜聽在下說、一樁意外、文
人的故事、喚做李愿隱居盤谷譜、這故事出在那

个朝代何處地方那故事出在大唐貞元年間孟
 州濟源縣有一人姓李名愿西平忠武王晟之子
 好學博涉經史頗愛屬文與韓昌黎好一旦厭世
 退隱於盤谷為世於一寸五分悟隨意皮犢鼻揮
 其詞曰世外道輩伺候於公卿之門奔走於形勢
 之途足將進而趨起欲行下不口將言而嗚嚙欲言不言
 之處污穢而不羞觸刑辟而誅戮僥倖於萬一老
 死而後止者其於為人賢不省何如也豈不馬鹿
 馬鹿耶乃故勺歌曰

書生本欲輩滑草

蹭蹬乃去為文人

囊中略有七千首

不負百年風月身

在下以上ヲ提テ玩味スルニ李先生底憂アリ

ヤ否ハ偵察ス可ラズト雖モ概ノ窺フ所ハ彼

ノ風流文士ノ氣韻ハ言外ニ漲リ脱然市塲

ニ能ク真ニ高処ヲ占タリ能ク這高処ヲ占タ

ル、氣像ヲ以テ、天下ヲ睨視セバ、貧夫ヲノ原ニ、
 儒夫ヲメ立シムルヲアラレ、方今ノ成島柳北
 是ナリ更ニ轉ノ朝ニ立テ、天下ニ号令セハ必
 ズ將ニ大ニ為スヲアラレ、方今ノ木戸松菊是
 ナリ、回顧ノ世上ノ文人ヲ視ルニ、卑屈陋醜其
 文人ノ何タルヲ識ラズ、其高処ト感得スル者
 ハ徒ラニ老莊ニ執着シ、羽化登仙ノ空理ヲ死
 守シ、瀟灑、神奇、出塵、絕俗ノ趣ヲ取モ、世上ニ向
 テ何等ノ功績ヲ見スナク、終ニ游惰民ノ議ヲ

世人ヨリ頂戴スルニ至ル、今茲ニ恃ニ論題ヲ
 起シ來リ、悉皆假文人ノ弊ヲ言ヲ用キズ、是レ
 論針ノ表面ヲ刺モ、深ク裏面ニ穿通シテ讀者
 暗マ中ニ其趣旨ヲ醸出シ、自ラ感シ得ルニ任
 セバナリ、然レモ今其一斑ヲ舉ゲ、以テ其各ノ
 地位ヲ有スルヲ言ハ、假藉中ニ高処ト自占ス
 ル者ハ、則チ前ニ所謂老莊ノ執着家、次ニ珍器
 書画ヲ儲藏ノ人ニ誇リ名ヲ銜フ者、次ニ詩歌
 書画ヲ賣テ、文人ノ招牌ヲ掲示スル者、次ニ容

氣ノ文人者流、次ニ幫間文人ナリ、佗ハ姑ク深ク答メズ之ヲ一般ニ散論シ、幫間文人ニ依テ論ジ出シ來ラン、的幫間文人ハ累々世上ニ偏ネク、地ヲ濫処ニ占テ、某館某樓某堂某園ト漫號スル者、一モ然ラザルハナシ、其舉行ヲ見ルニ、皆一家ノ見識ヲ以テ、其腕力ヲ揮ヒ、經紀スル能ハサルガ故ニ、大抵骨董舖ニ結付シ、某ノ乃公某君卿トノ間ニ在テ、賣東西ノ媒妁ヲ為シ、幾分ノ利、幾多ノ謝儀ヲ受テ、自得スル者往

々然リ且某乃公、其幫間先生ニ許スニ、鑑定家ヲ以テス、先生ハ之レ骨董舖、同穴ノ老狸ニノ鑑定ノ眼ヲ具ス者ナランヤ、一文不知ノ奴ニダモ若サル也、而ノ其鑑定ノ真贋ハ利益配與ル多寡ニ從テ變化シ、贋モ乃チ真ト為リ、真モ乃チ贋ト作ル、特ニ甚シキニ至テハ、已レ贋ヲ為シ之ヲ骨董舖ニ訛シ、自ラ之ガ媒妁ヲ為ス、先ツ乃公家ニ至ルヤ、誓首九拜、性ヲ屈テ媚ヲ献スルヲ數回、奇話、縱横、愛姫ヲ賞シ、風流ヲ吹

唱シ、以テ稍ク齋ス処ノ幅ニ移ル、既ニ出シ、子
 子トノ韻致ヲ論シ、且白ク、某大人ノ所藏ヨリ、
 超ルテ數番實ニ希世ノ出來ナリ、嘗某人幾個
 ノ金ヲ以テ購ント為リ、僕幸ニ其所ニ至リ、骨
 董舖ヲ叱ノ本位幾金ナルヲ知ラシメ、竟ニ其
 話ヲ破ラシメタリ、若シ一度他ノ藏幅家ノ手
 ニ落ナハ恐クバ再出ベカラズ、卿意如何ト、終
 ニ説得テ、強賣スルニ至ル、是、个漢的ハ、未ダ文
 人ノ慙ヲ失ナハザルヲ以テ、少シク宥ス処ア

リト雖モ、中ニ陽ニ燕ニ陪メ、詞花ヲ挑ヲ名ト
 シ、陰ニ歌妓ノ為ニ乃公ヲ説者アリ、其詞ニ曰
 ク、卿知シメサズヤ、歌妓某ナル者、不幸ニヲ妓
 籍ニ有モ、其志シ文雅ニメ、貞淑姿ハ藍田ノ玉
 ニ比シ、貌ハ金谷ノ花ヲ欺クトハ、此佳人ナラ
 ズ、誰ゾヤ、頃嘗テ郷ノ為ニ病メリ、其故何如
 ヲ知ラズト雖モ、恐クハ、郷ニ意アルナラン、郷
 夫レ之ヲ憫メヨト、百方竟ニ狼妓ヲメ、二八ノ
 花ト謂ヒ、以テ權的タラ、令ルニ至リ、已レ之ニ

頼テ、其処ヲ得ル者アリ、呼嗟、朝川ノ流ニ沐シ
品行高尚、心ハ日月ノ光ノ上ニ出慮ハ天地ノ
外ヲ包ム、文士ニノ何ゾ其身陋、醜狀ナル、車夫
雖、慙死スル処ナリ、宋ノ公族、趙子昂ハ上下
五百歳、縱横一萬里ト稱セラレタル、書家ナシ
氏、國家ノ顛覆ヲ意ト為サズ、國亡テ后チ、讐敵
タル元ニ臣ヘタルヲ以テ、名教ノ罪ヲ脱然ス
ル能ワズ、張白齋嘗テ子昂ノ折竹枝ノ画ニ題
シテ曰ク、

先生畫竹、滿人間、畫竹、爭如畫節、難
狼狽、一枝湖水上、與人、堪作釣魚竿、
沈石田、又子昂ノ苕溪圖ニ題メ、曰ク、

錦衣公子玉堂仙、寫出苕溪類朝川、
兩岸青山紅樹裏、豈無十畝種瓜田、
ト、其不義ヲ詰リ、身陋ヲ責ル、ト、如斯此文人ノ
面目ニ戻レバナリ、況ヤ、幫間文人ヲヤ、在下古
往今來ニ注目メ、人ノ書画ヲ愛スルヲ視ルニ、
其書画ヲ貴ムニ非ズ、其人物ヲ貴ムナリ、三代

以上ハ姑ク置キ王右軍ノ書王維ノ畫顔真卿ノ書米南宮ノ畫宋以下陸續見ルベシ本邦ニ
 ヲ嵯峨天皇具平親王道風貫之ノ書皆單鈎ノ
 妙神ニ薄リ墨痕雲煙ノ紙上ヨリ生ズルヲ覺
 降テ保元以來徳川氏初年此際凡五百年書
 画ナキ時代ト云モ可ナリ入木道ア來テ廣澤
 池大雅趙洵齋以下人ヲ以テ傳フル者屈指ス
 ルニ違アラズ而ソ一様ノ眼ヲ以テ其書或ハ
 画ヲ見レバ磊落奇怪何レノ邊ニ迫神ノ點ア

ルヤラ知ル可ラズ然レ氏具眼ヨリ之ヲ見レ
 バ一個ノ死筆ナク精神自ラ顯出ノ雄優丹成
 ノ瑞氣紙上ニ升騰シ一芥ノ市塵ヲ留ムルナ
 シ今ニソ其人タルヲ想見スルニ足レリ之レ
 一片紙數萬錢ノ價ヲ有スル所以ナリ故ニ其
 磊落奇古ナルハ固ヨリ問ズ然ルニ晚近磊落
 奇古ヲ以テ高処ト為シ縱橫筆ヲ起シカメテ
 怪ヲ揮テ其謂フ所ニ曰ク東坡モ未ダシ山谷
 ニ平凡懷素モ不然倪雲林モ俗ナリ藍田淑モ

妙ナラバト、其眼大ニシテ、口弘ク腕疲テ糸ノ如シ、之ヲ懦夫ニ金甲ヲ鎧ハセ、冀北ノ駿馬ニ乘タルニ譬フ、俗子ヨリ之ヲ見レバ、外貌ノ凜乎タルニ怯テ、必ラズ雋傑ヲ以テ許スモ、其精神ナキ知ル可ナリ、其然ル所由ハ他ナシ、書家屋、畫家屋ニシテ、其價ニ由テ精粗ヲナシ、或ハ自ラ價ヲ注定メ、而後揮毫スルニ依レリ、故ニ書若クハ画、俗氣紙面ニ漲ギリ、金ト鼓テ韻致ヲ探ルモ逢ニ由ナシ、王元章嘗テ曰ク、子昂精工工之

請ニ應ズルニ木碑ヲ以テス三十年ニシテ朽ナハ、乃チ予カ意ナリ、然ノ後銘ヲ請フノ大雅輩出セズンバ、又木碑ヲ以テ然スルヲ數年、後世子孫ニ至テ、此銘ニ向テ喋々ヲ容ル者ナキハ、則チ換ルニ石碑ヲ以テセヨト、嗚呼、其見識ナル、又、人才子ノ体ヲ得タリ、彼ノ生前、傲慢ニ石碑ヲ建テ、自ラ大家ヲ以テ、天下ニ許ス者ト其差異、豈啻ダ霄壤ノミナランヤ、然レ、凡世上ハ、妙ニシテ最モ奇ナルカ故ニ、以上論スルカ如

キ、先生ニ向テ、誓首謝儀ヲ逞シ、書画ヲ請フ者
 アリ、是所謂讀ン同士書ン同士ノ黨ヨリ出テ
 怪シムニ足ラズト雖、已ニ之ヲ得レバ、幅若
 クハ額トナシ、公然居室ヲ表飾人、自得スル者
 アリ、在下此ヲ評ノ、其了見文ヲ表シタル招牌
 ト為ス、何トナレバ、彼ノ儒夫金甲先生ノ書画
 フ以テ滿意ナル片ハ、則チ其人物ノ識慮、已ニ
 儒夫金甲先生ノ下ニ在レバ也、誤テルモ、又甚
 シカラズヤ、寧口大津繪ノ奇古ナルヲ將テ表

内、時有俗筆ト此其志氣ノ稍筆尖ニ見レタル
 也、子昂ニメ猶如斯况ヤ書家屋、画家屋、及ビ俗
 書画ヲヤ、概ハ言ノアルト言ノサ唯リ、方今
 山中静逸名、献字、子文、三河、人、住、於、西、京、修、学、院、村、在、アツテ、本邦
 ニ文人画アルト云ンノ人アリ、若シ價ヲ以
 テ、精粗スルハ理ノ然ル可モソト曰ハ、在下、之
 ニ答テ曰ク、是レ乃チ文人ノ面目ニ成レリ、若
 シ價ヲ以テ、精粗セバ韻致ナキ一萬々明ナリ、
 已ニ韻致ナキ片ハ、何ゾ變法磊ノ書画ヲ以テ、

Handwritten signature or title at the top left of the page.



揮漫應中
筆自多
可憐
其常演
泥瓦作空
吹字在如
如身家無餘

山水樓閣

表飾スルヲ用ニ、寧口洋画ニ若サルナリ、看ヨ
方今表飾スルニ、洋画ヲ以テスルハ、乃今文人
書画ノ衰ヘシ候ナルヲ、又特ニ、近年愍笑ニ堪
ザルハ、自作ノ詩文、歌、俳、偕ヲ、石ニ雕メ、不朽ニ
傳ユル者、墨江ノ隈、金龍山中、或ハ某社頭、某蘭
若ニ、散見ス、嗟、吁、何ノ頑皮賴骨ナル、田島象二著述モ又
然ルヲ予嘗テ、人ノ譚ヲ聞ニ、曰ク、人アリ、碑銘
ヲ某先生ニ請フ、聽サズ、再三ニメ許スニ、水硯
ヲ以テメ、曰ク、古人言ゾヤ、後世懼ルベシト、今

飾スルカ、或ハ左ノ勺ニ由テ、天地ノ美觀ヲ拘
引シ、滿目ノ快ヲ為ニ如ズ

八窓外、綠水青山、天関圖画、
三徑中、黃花白酒人、即神仙

山在屋頭、一摺自然圖画
風行水面、滿池不琢文章

○書画會

再說世所謂書画會者、其來久矣、概以王右軍、蘭

亭、莛、為、叔、蓋、得、傳、也、降、至、其、後、世、而、盛、者、石、崇、之、
於、金、谷、燕、太、伯、之、於、桃、李、園、其、尤、者、也、就、中、如、西、
園、雅、集、可、謂、太、盛、事、矣、其、記、曰、洗、硯、魚、吞、墨、烹、茶、
鶴、避、烟、事、可、知、也、而、為、其、會、會、主、悉、皆、辨、費、用、無、
毫、厘、責、於、人、是、風、流、君、子、之、意、可、然、焉、而、今、者、乃、
不、然、多、假、名、於、書、画、會、以、募、財、其、事、最、巧、其、策、極、
得、今、琴、曲、辨、明、焉、為、懦、夫、金、甲、先、生、所、惡、世、間、一、
樣、ノ、書、画、會、ヲ、見、ル、ニ、皆、理、財、ノ、関、係、ヨ、リ、生、ジ、
風、流、ノ、為、ニ、會、同、ス、ル、ニ、非、ズ、先、ツ、會、ヲ、関、カ、シ、

ト、ス、ル、ヤ、豫、ジ、メ、知、已、ノ、多、少、ヲ、算、シ、入、ノ、出、
ヨ、リ、巨、多、ナ、ル、片、ハ、則、チ、起、ス、而、ノ、自、ラ、揮、毫、メ、
半、折、及、ビ、額、ヲ、調、へ、之、ニ、添、ル、ニ、會、日、普、告、牘、ヲ、
以、テ、ス、自、ラ、拙、ニ、メ、人、ノ、或、ハ、會、セ、ザ、ル、ヲ、恐、ル、
ル、者、ハ、普、告、牘、ニ、某、先、生、某、先、生、補、助、或、ハ、出、席、
ト、明、書、シ、名、ヲ、銜、ヒ、人、ヲ、鉤、恰、モ、落、語、家、ノ、會、同、
ス、ル、寄、席、ノ、如、ク、然、リ、豈、慙、面、ノ、至、リ、ナ、ラ、ズ、ヤ、
其、普、告、牘、ヲ、配、賦、ス、ル、モ、知、已、ヨ、リ、知、已、ニ、依、賴、
シ、百、方、四、出、シ、稍、ク、會、日、ニ、至、レ、バ、彼、懦、夫、金、甲、

先生及ビ、天狗連、傲然星羅シ、不沽酒ニ腰ヲ脱
 シ醉フ看過スレバ殆ド竹林ノ七賢人ニ似タ
 リ、或ハ李白ニ慢擬スルアレバ、倪高士ヲ容貌
 スルアリ、鼻皆張テ冷モ春日竹林ニ入テ筍ヲ
 見カ如シ、既ニノ客至ル、謝儀概ネ五十錢ヲ以
 テ會主ノ黙算ニ合フナリ、然レモ十二錢五厘
 ヲリ壹圓ニ至テ止、其金圓ニ應ノ、膳札ヲ與フ、
 十二錢五厘ニノ、大食スルハ、會主ノ鼻ヲ撮ム
 処、壹圓ニノ小食ナルハ、會主ノ暗ニ悦ブ怨ナ

リ、席中、縦横群ヲ為シテ屯スルハ、天狗先生ニ
 揮毫ヲ請フ也、而メ其書ヤ、画ヤ、多ク半醉半醒
 ノ上ニ成リ、特ニ本日ノ飲食ニ報ユル迄ニノ、
 其拙見ル可ラズ、揮毫ノ為ニ、却テ白紙ノ本價
 ヲ落シ、廢摺舖モ、唐紙ナルヲ以テ、顧リミガ
 ニ至ル、何ゾ書画會ノ殺風景ナル、路道ノ刷筆
 兒ニ劣ルヲ遠シ、然レバ何ゾ韻致雅趣ヲ論ズ
 ルヲ用キン、在下嘗テ日本ニ書画會無ト云ハ、蓋
 シ此所由ニノ、証言ニハアラザル也、而ノ唯リ、

近日勝海舟ノ尚齒會アルニ逢テ、日本前後二
千五百餘年ニ初メテ書画會アリシト云モ可
ナリ、儒夫金甲先生、夫書画會或ハ新宅披露等
ニ假訛メ、金ヲ募ラント欲スルヨリ、寧口平々
當ニ

拙者ハ書画ノ才ニ劣シク喰テガ出來マ
センカラ何卒御助ケ被下マシ、
ト知巳ノ家ヲ輪回メ、中村樓等ヲ煩ハサハル
ニ若ズ、呵々、看ヨ後年文人書画ナル者ハ地ヲ

拂ヒ、各ノ經紀ニ大ナル艱難ヲ生シ、金甲先生
没メ後、更ニ真ノ文人起興スルヲアルヲ

○居士ノ稱号

輟畔録云、今人以居士自号者甚多、考之六經中
惟禮記玉藻有曰、居士錦帶、其注謂道藝處士也
亦改齋漫録云、居士之号起於商周之時、按韓非
子書曰、太公封於齊、東海上、有居士任高華、仕昆
弟二人立議曰、吾不臣天子、不交諸侯、耕而食之、
掘而飲之、吾無求於人、無上之名、無君之祿、不仕

而事カ云然則居士云者處士之類也然ルニ述
 年官吏華士族ノ輩ニシテ文事ヲ嗜ム者居士ヲ
 号スル者往々アリ假令戲事ニ用ユルノミニ
 シテ公ナラズト雖也之ヲ印章ニ用ユルハ
 則チ公ナラズト云ヲ得ス若シ夫レ誠ニ居士
 ヲ以テ處サントナレバ宜シク家禄ヲ奉還シ
 或ハ骸骨ヲ請テ然ル後チ号ノ可ナリ名教ノ
 振ハガルイヨリテ文士ノ不探索ナル歎息モ尚餘アリ
 ドンタク居士ノ輩夫レ再思セザル可ラズ古
ヨクシキ

詩アリ居士ノ真面目ヲ證ス

生涯千頃水雲寛 舒卷乾坤一釣竿

夢裏偶然伸雙脚 渠知天子是何官



身如椰子腹瓠壺 三畝荒園常荷鋤

著萬卷書雖不足 容數百人還カヘテ有餘

背匠 ハクシウ
木桶 ハクケン
弄蛇乞兒 ツカヒ
八三帳工移ル

明治十年一月廿五日版権免許
同年二月十五日出版

定價四十五錢

東京第六大區四小區

深川西六間堀町廿二番地

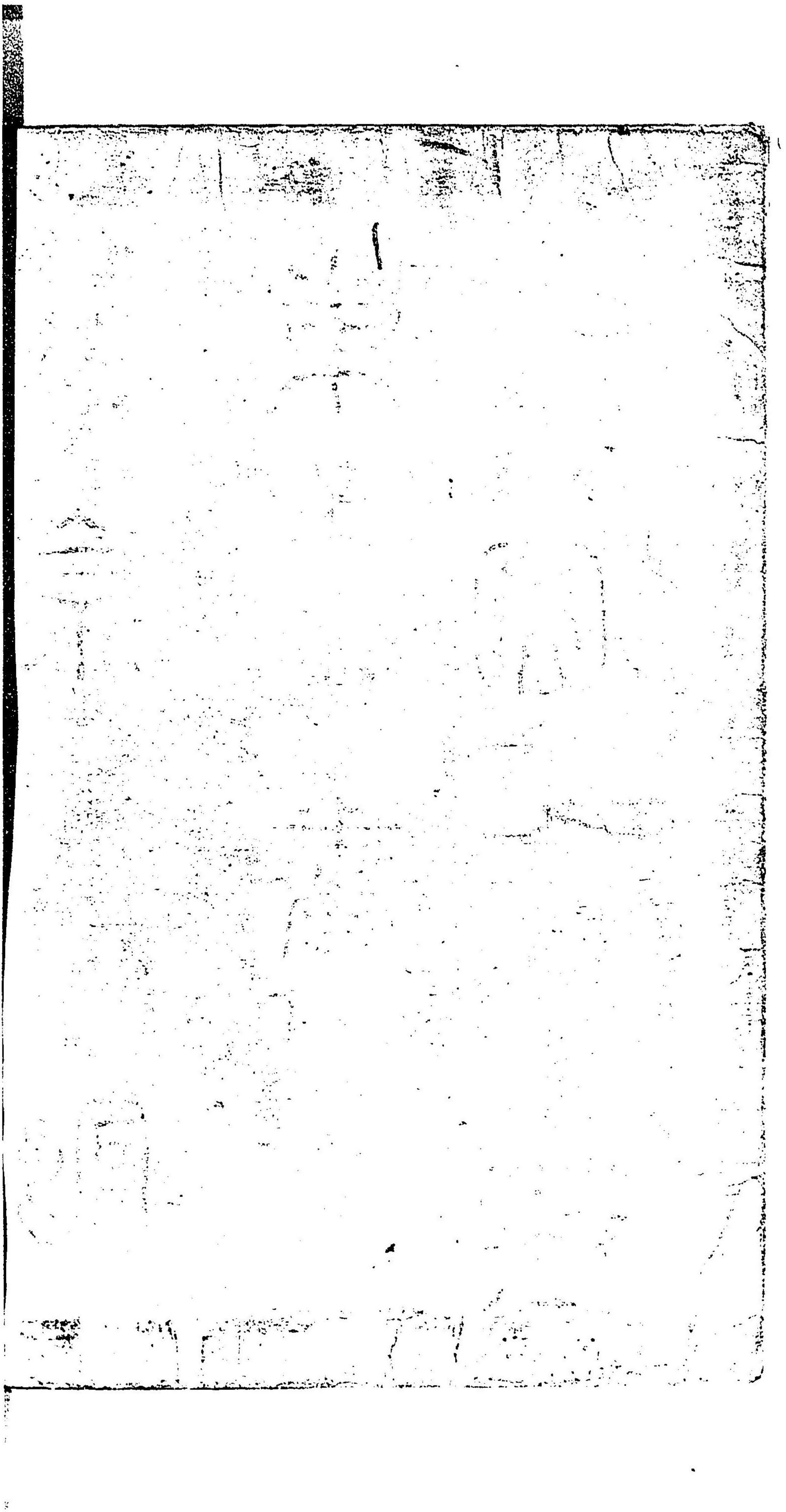
著者 田島象二

東京第一大區十四小區
蠣殻町一丁目五番地

出版人 若林喜兵衛

林書

同	同	同	同	同	同	東	橫	越	信	同	同	同	同	同	大	同	西		
						京	濱	後	州						坂		京		
若	北	收	山	吉	長	小	稻	北	師	樋	西	中	前	田	松	大	柳	林	勝
林	澤	野	中	川	野	林	田	島	岡	口	澤	川	川	中	村	野	原		郵
喜		吉	市			新	佐	茂	伊	小	喜		善	太	九	木	喜	文	治
兵	伊			半	龜					左	勘	右	右	市	兵	兵		右	次
衛	兵	兵		兵	兵	兵	兵	兵	兵	衛	衛	衛	兵	衛	兵	兵		衛	衛
發											郎	助	衛	門	衛	衛	衛	郎	門
兌	八	衛	衛	七	七	衛	衛	衛	衛	門	郎	助	衛	門	衛	衛	衛	郎	門



761

東泉圖書

四 冊	一 五 四 號	四 架	四 函	屬	類
--------	------------------	--------	--------	---	---

書林之庫

四